

ドナウ通信

御挨拶

1993年

ハンガリー日本人会会長

ニチメン(株)ブダペスト事務所

桑島 有一

日本人会の皆様、今年一年、ハンガリー日本人会会長という重責を努めさせていただきまますので、よろしくお願ひ申し上げます。

私が、ハンガリーに来ましたのは、今から約2年前の1991年3月です。率直に申し上げます、光陰矢のごとくと申しますか、瞬く間に、2年間に過ぎてしまいました。この間、ハンガリーの状況は、その当時、珍しかった西側の商品が、今や、街にあふれんばかりとなり、民間企業の数も増え、東欧の民主化のトップランナーなどと持てはやされるまでになりました。そのいっぽう、今まで経験したことのない、高インフレ、高失業率、それに加え犯罪数の増加など、マイナスの面もみえはじめ、ここハンガリーに住まわれている皆様も、日本では、味わえない、いろいろな貴重な体験をされているかと思ひます。

そこで、今年の日本人会の活動方針と致しましては、当地に住まわれている皆様のより一層の親睦、懇親並びに互助を計るという本来の主旨を尊重しつつ、最近芽生え始めた、日本・ハンガリーとの交流／交換の一層の推進を目標にして活動して行きたいと思っております。東欧民主化の影響に伴い、日本・ハンガリー両国の経済／文化の交流が加速するにつけ、ここハンガリーに居住する邦人数が大幅に増え、また、反対にハンガリーより日本に行く人の数も増えつつある現在、ハンガリー日本人会の役割も、在ハンガリー邦人だけのための日本人会だけでなく、日本・ハンガリー両国間の友好の輪を広げることも重要な役割であると認識する時期に、きているものと実感しております。

微力ではありますが、皆様一人一人にとり、ハンガリーでの生活が、思い出深いものになるよう、最善を尽くすつもりですので、今後ご指導ご支援のほど、よろしくお願ひ致します。



大使館より

ハンガリーに対する日本の援助

日本の対ハンガリー援助は90年1月に海部総理がハンガリーを訪問されたのを契機として、その後着実に進展しています。援助の内容を大きく分けると「資金協力」、「技術協力」、「国際機関との連携による協力」及び「文化無償協力」であり、具体的には以下のとおりです。

(1) 資金協力

まずここで紹介したいのが日本輸出入銀行による融資です。これは90年から3年間に5億ドルをめどとする融資の供与で、現在までに世界銀行との協調融資による構造調整融資3・5億ドル及びプロジェクト融資が実行されています。また、92年にはハンガリーの中小企業育成のための融資1億ドルを新たに供与することになりました。これに関連してJAIIDO（日本国際開

発機構）からも当面1千万ドルを東欧諸国の民間企業育成のために出資することになりました。

次に、91年9月、貿易保険について2年間で4億ドルの引受枠を設定しました。

また、ハンガリーの環境対策プロジェクトに対して円借款を供与することが検討されています。

(2) 技術協力

このの主体になるのはJICA（国際協力事業団）による協力です。

まず、これまでに約350名のハンガリー人研修員を日本に送り、生産管理、経営管理、環境保全等の研修を実施しています。また日本から専門家や調査団を派遣し技術の伝達や開発計画策定の協力をしています。現在は、近い将来ゴミ処理が限界に達するとされているブダペスト市の廃棄物処理対策計画とハンガリーで最大の重工業地帯であるシャヨー川流域の大気汚染対策計画の青写真作りを実施しています。

青年海外協力隊も派遣されており、

日本語教師2名、剣道教師1名、柔道教師1名計4名の隊員が大学や高校等で活動しています。

それから、医療技術協力計画として92年5月にエステルゴム市の市民病院に、外科用X線テレビジョン装置等約3千万円相当の医療機材を供与しました。

JICA以外の協力では日本の各省庁及びその外郭団体による人的交流があります。

(3) 国際機関との連携による協力

ブダペストに設立されている国際機関への協力としては、まず、中・東欧地域の環境改善に貢献するために90年に設立された中・東欧地域環境センターへこれまでに160万ドル拠出しています。また、中・東欧諸国の税務執行能力の向上を図るため設立されたOECD中・東欧税務研修センターへは拠出金の1/4を分担したほか、講師派遣等の面で積極的に協力しています。

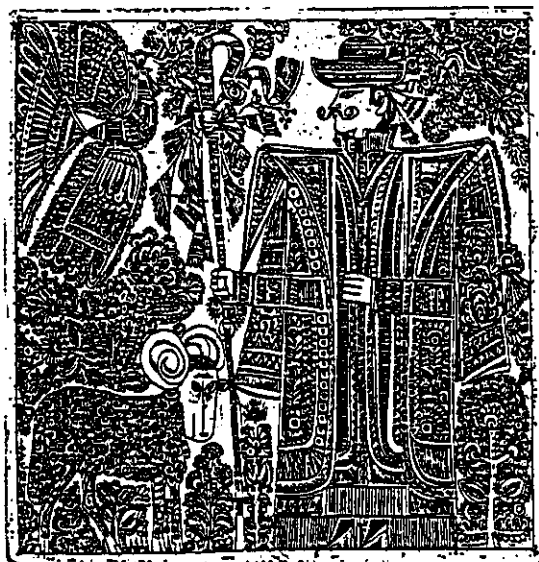
国際機関を通じたハンガリーへの協

力としては、UNIDO（国連工業開発機構）に東欧支援助トラスト・ファンドとして100万ドル拠出し、これを用いて90年、91年、ハンガリーに対して工業環境分野プロジェクトを実施しました。またILO（国際労働機構）が91年より3カ年計画で実施しているハンガリーの雇用政策を支持するプロジェクトの資金を全額日本が拠出しています。

（4）文化無償協力

東欧支援助の民主化支援の一環として91年度には、ハンガリー国立交響楽団に対して約4、300万円相当の演奏機材が供与されました。機材の贈呈式を、4月2日の演奏会の冒頭に行う予定です。

92年度分としてはハンガリー国立オペラ座に約4、900万円相当のAV機材を供与する計画です。また93年度については、ハンガリー政府から要請を受けた案件について現在日本側で審査を行っています。



日本人補習校理事会からの

お知らせとお願い

しました。理事会は補習校教員および保護者の協力を得て、いくつかの移転候補物件を検討してきましたが、最終的に、昨年9月に開校したモーリツ高校が貸与できる教室の数や施設面で優れていると判断し、早期の移転が望ましいと決断しました。

モーリツ高校はブダペスト2区トロクヴェーヌス通り48-54番地に位置し、体育館、講堂、フィットネス室、テニスコート、ハンドボールコート、運動場を備えた最新の設備をもつ学校です。学校側は日本人補習校の受入れに積極的であるだけでなく、校舎施設を広く外部の人々に開放する方針を掲げています。今後、さまざまな行事に、モーリツ高校の施設を利用することが可能です。

補習校は今年度から新しい条件、施設で再出発いたしますが、今後とも皆様方のご協力をお願いする次第です。

92年度理事会は、大使館移転計画ともなう日本人補習校の早期移転を検討していましたが、今年4月（実際の移転は5月半ば）からモーリツ・ジグモンド高校に移転することを決定した

昨年の四月に補習校運営委員としての活動を開始してから早一年が経とうとしております。その間には新しくブダベストに来られた10名の児童生徒をお迎えし、又、3名の児童生徒を帰国等により補習校からお送りしてきました。私たち運営委員はこの三月で一年の任期を終了し、四月からは新しい委員の方々に、補習校の運営を引き継ぐこととなります。この一年間に補習校の運営に対しご支援ご指導をいただいた関係者各位の方々に対しこの場をお借りして厚く御礼申しあげます。

さて、補習校に通学する児童生徒の数は、新たな日本企業の進出と駐在員の増加により、ここ数年で著しく増加致しました。これら子女に対する補習校での教育はその重要性を増すとともに、保護者が補習校に期待する教育の有り方も、多種多様に及んできており

ます。一概に規定することはできませんが、低学年の子女をもたれる保護者の方と高学年の子女をもたれる保護者の方とでは補習校に期待する教育内容が異なりますし、ハンガリーに新しく来られた方と帰国を目前にされた方とはまた違ってきております。低学年の子女をもたれる保護者の方々は、まず何よりもハンガリーでの生活に慣れ楽しい学校生活を送ってほしいという願いのもとに、学力の向上を期待するのはもちろんのことですが、それ以上に補習校での友達との付き合いや先生との触れ合いを重要視されておられます。又、一方では、高学年の子女をもたれる保護者の方々は、帰国後に直面せざるを得ない日本の過熱気味な受験教育の現状や、帰国子女として日本の小中学校に転入学した場合の適応の難しさを心配され、又、その不安から、より一層の学力の向上を願うとともに補習校にはさらに高度な授業内容を期待されておられます。

このような保護者の方々からの様々

なご意見やご要望にお応えするために、従来の体制を踏襲していたのではこの変化に対応できにくくなっており、運営委員会としてはできる限り、時代の要請に即した補習校の運営を図るため、従来の組織、規約を大幅に改定し関係者各位の忌憚のないご意見やご要望を聴取し、補習校の運営にできる限り反映させるよう努力いたしました。

運営委員会がこの一年間に実施いたしました活動内容は日本人会、商工会保護者会等にて皆様にご報告してまいりましたが、改めて一年間に実施した主な事柄を次の通り、ご案内申し上げます。

- ・ 補習校規約の改定
- ・ 理事会の設置
- ・ 教職員の就業規則の改定
- ・ 団体傷害保険への新規加入
- ・ 入学・退学届他書式の改定
- ・ 補習校移転の決定

まだまだ解決すべき問題があることは承知しておりますが、この一年間に実施した新しい体制作りにより、今後

様々な問題に対処していきける基盤は確立できたのではないかと自負しております。

補習校の運営に携わって特に感じましたことは、補習校に通われる児童生徒の皆さんが実に明るく伸び伸びと生活されていることです。アメリカンスクール、又は現地校が終わったあと更に補習校に通ってくる子供たちは、友達と遊ぶ時間も限られ、その精神的、肉体的負担が大きいかかわらず、日本の小中学校の児童生徒に比べ大変素直で子供らしさに溢れているような気がしてなりません。

しかしながら、楽しいだけではなく補習校という特殊な学校形態の中で、子供達に大きな負担がかかったとしても、将来有為な若者に育って貰う為には、帰国後の適応を考え学力の向上を目指す補習授業は是非とも続けてもらわなければならないと強く感じております。その目的の為に諸先輩の方々がブタベストの地域環境に適応した補習

校を設立し、長年にわたる努力の結果ここまで育ててきて下さいました。この伝統を守り、目的を達成する為、教育方針に関する先生方との率直な話し合いと、小人数であるが故に得られる木目の細かい教育を大切にしていきたいと考えております。

最後に、この一年間補習校の児童生徒を熱心にご指導頂いた森本先生、金子先生、梅村先生、西川先生、高橋先生、相馬先生に対し心から御礼申し上げますとともに、ブタベスト日本人補習校の更なる発展と平成五年度の運営委員の方々のご健闘をお祈り致します。

委員長	清川	光雄
副委員長	鈴木	孝史
委員	天野	明
委員	中山	昌秋
委員	佐藤	紀子
委員	藤島	あやこ



補習校便り

高く晴れ渡る日が続く今日この頃です。先日の雪の日に、先生と共に雪合戦で大はしゃぎした子供達でしたが、この陽気に雪もあらかた溶けてしまいました。溶け残った薄汚れた雪を見ながら、「あの日は楽しかったね」「また降らないかな」などと、話し合っている声が良く聞かれます。

学校行事のほうですが、一月の始め

には、補習校の児童・生徒だけでなく子供会の小さい子供達と一緒に餅つきをしました。三年ほど前にハンガリーで作った杵と臼を使って餅をつくのですが、今年は少々ハブニングがありました。

した。

というのも、前の週になって杵が割

れてしまっているのが発見されたからでした。この国では、一本丸太からの細工をあまりしないと見え、この杵は何枚かの板を張り合わせて作ったものだったのです。乾燥が激しいために、それぞれの木が反ってしまい、バラバラになってしまったのでした。今回限りということで、森本教諭がドリルと釘でなんとか補修しましたが、来年は使えるかどうか分からないといった模様です。日本製の杵があるといいのですが……。

ともあれ、当日はたくさんの方々に参加していただき、また、大使御夫妻から十キロものもち米をいただき、賑々しく餅つきをすることができました。有り難うございました。

二月に入って、子供達は土曜日の特別活動の時間に、絵を描いています。

これは何のためかという二十日の授業参観日に向けての準備なのです。

この日には、日本から取り寄せた竹ひごや糸を使って、親子で凧作りをします。

天気が良ければ、その後に凧上げを行う予定ですが、うまく事が運ぶかどうか分かりません。青空に舞い上がる凧に、日本の匂いを感じてもらいたいです。

学習については、学年末に毎年作成している、学校文集の原稿書きを始めました。ブダベスト日本人補習校十周年記念創刊号から、数えて六集目になります。人数が少ないので、全員の作品を一冊の文集に編集します。

今年の内容は『自由作品』『自分の将来の夢・希望』の二つです。それぞれの子供が、色々な未来を夢見て、実現に向けて大きく羽ばたいて行ってもらいたいと願います。

ことばにまつわるお話

第3回

相馬 笙子

(11) さんばも一字まちがえば

去年9月の終り頃、大学の日本語初級授業でのことです。その日はひらがなで書いたことばを読む練習です。よくある読み間違えは形の似ているものとしては、「あ」と「お」、「い」と「こ」、「ぬ」と「め」、「る」と「ろ」、「ね」と「れ」と「わ」、反対向きに見えるものとしては、「さ」と「ち」、「ま」と「も」、等があります。あし、いす、うま、えいが、おと、一人ずつ次々と読んでいきます。かみ、くに、けむり、こども、○んぼ……ここで「さ」と「ち」を間違えてしまいました。アッと息を飲んだ私。説明すべきか否か? 「さ」を「ち」と読み、「んぼ」と続けば他のことばになり意味は……ハンガリー語では? 日本語を始めてまだ一カ月。興味津々、何でも吸収してしまう時期。やっぱりまず

いか。やめておこう。

瞬時に様々な考えが頭の中を駆け巡り、結局、「これはchiiではありません。saです。さ、ん、ぼと読みます。」さりげなく次に進みました。

(12) 私はいつもあたっていきますよ

高校、現代国語の時間。冬でした。先生の質問になかなか手が上がりません。

先生ーまだあたっていないのは誰でしょう？(早く答えろ、誰か。)

生徒ーそれは先生です。(誰も判らないんだからたまには自分で説明しろ)先生ー私はいつも当たっていますよ。(嫌な奴ら。答えるのは生徒の努めだろうが。)

私ー(あたってる？いつも?) ストープにね。(後ろの席は寒いんだから)先生ー???(あいたたた。きついこと言うよ、あの子は。)

真っ赤になって下を向いた先生を見て、言い過ぎたかなと反省しました。

(13) おそばやさんで

3年生のお兄ちゃんと1年生の弟がお昼を食べにおそばやさんへ行きました。壁に貼ってある献立表を二人は熱心に眺めます。ややたって、

兄ーぼくは「きつね」にする。

弟ーじゃあ、ぼくは「さる」。

お兄ちゃんは弟にざるを注文してあげました。

(14) 貞淑な夫

高校、漢文の時間。指人形のような顔をした漢文の先生は、生徒達から嫌われていました。ポソポソした話し方で何を行っているかよく聞きとれません。生徒が理解できなくてもどんどん授業を進めてしまいます。なかでも理解しなかったのはテストの返し方です。気に入った女性徒から少しづつ返すし、全部返すのに一カ月位掛かります。斎藤君という男の子は名前を書かないで出したので、最後になりました。

先生ーこれは誰のですか。名前がありません。

斎藤ーあっ、僕のです。

先生ー名前は?

斎藤ー斎藤です。

先生ー斎藤何ですか。下の名前ですよ。斎藤ー名前は、まだない。

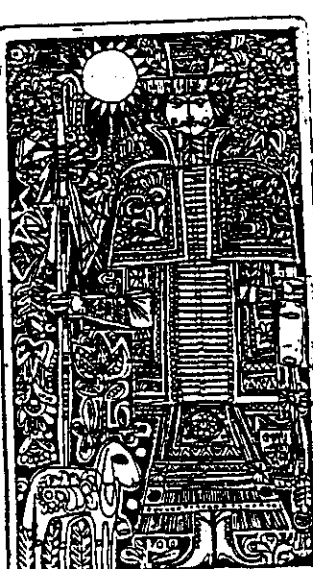
怒った先生にもう一度聞かれ、彼は

こう答えました。

「サダオです。貞淑の貞に、夫のオと書きます。」

ークラス中爆笑。授業中断。先生はカッカ。ー

とても貞淑な夫にはなりそうもなくちょっと不良っぽく、日頃からいっかげん男と思われていた斎藤君が示した小さな反逆に友人達は心の中で拍手を送ったのでした。



ハンガリー語の語源・言葉の由来

盛田 恒平

(バビッチ・ミハイイ高校3年)

ハンガリー語は、ハンガリーの歴史とともにさまざまな国の言葉に影響されています。とくに、マジヤール人がこの土地にくる前、フィン・ウゴル民族の系統は十いくつもの言葉に分かれていました。もちろんこれらの影響をもちとも受けているのは言うまでもありませんが、16世紀半ばから約150年もハンガリーの大部分の土地を占領していたオスマントルコのトルコ語、そして、その後のドイツ語などは、現在のハンガリー語を形成するにあたって大きな影響を及ぼしているといえます。

Barczl Geza 氏の「Szo fejtés szótár」という辞書には6004の

1172の単語はフィン・ウゴルを源

泉とします。

皆さんも、時々気付かれると思いますが、ハンガリー語と外国語のあいだによく似た単語があります。たとえば HAZ (家) / HOUSE (英) ESZIK (食べる) / ESEN (独)、EAT (英) などがそうです。

このように、その国々から来た言葉ではなく、ハンガリー語独自の単語がたまたま他の国の単語に似ている物があり、その数は400〜600と言われており、各言語においても、およそ600〜800はあると言われています。

ところでハンガリー / Magyarország の「magyar」は、ウゴルの言葉が由来で、「a valódi népek a fia」(真の民族の子孫)と言う意味です。ほかにも幾つか皆さんがよくお目にかかる様な単語をみてみましょう。 Agy (ヘッド) は、ハンガリー人が今の場所に来る前からあったフィン

ウゴルの単語でもととは、毛皮(寝るため)を、意味していました。

A-nyó (林檎) は、トルコ語系統に属する物に由来し、カザフスタンの首都アルマ・アータ(現在名前が変更されています)は、「Alma atja」つまり、「林檎の父」で、ハンガリー語と同じです。つまり、アルマもアチャもトルコ語が起源なのです。

その他には、

Marha (牛)

ドイツ語 「Marchat」

Lekvar (ジャム)

スロバキア語 「Lekvar」

Csalad (家族)

古ロシア語 「calad」

Kavi (コーヒー)

オスマントルコ語 「khave」

Paprika (パプリカ)

セルブ・クロアチア語 「paprika」

などが挙げられます。

ハンガリー語は、よくヨーロッパでは珍しく他の言語とは文法的に著しく異なると言われていますが、意外とよく似た点があるように思います。英語の影響もあるらしく、わが学校の英語の時間で、アメリカ人の先生が思わぬ単語の類似に喜んでいました。

最後に、拙い文章でしたが、皆さんの印象に残れば幸いです。今回はこの文を書くにあたり、ハンガリーの著名な言語学者Dr. Szendrői氏から教えを頂きました。



読書室

新しいアジア論への誘い

河田 潤（歴史学専攻）

ソ連の崩壊によって、これまでソ連の傘のなかに隠されていたユーラシアの諸国が、歴史の舞台に再び登場してきました。ヨーロッパと日本の間にはソ連という巨大な帝国が存在していたのですが、その帝国の崩壊によって、半ロシア化された中央アジアの諸国の存在が再び歴史の脚光を浴びつつあります。

明らかですから、来世紀の世界史の発展を考える上でも、興味尽きないところでは。ハンガリーにとっても、マジャール民族の発祥地ですから。

日本で映画化された「おろしや國酔夢譚」（井上靖著、文春文庫）によると、大黒屋光大夫たちがカムチャッカに漂流したとされる1783年には、ロシア人はすでにシベリアの東端まで辿り着いていました。そのお陰で、毛皮採取の船団といっしょにオホーツクに渡り、その後、ヤクーツクを経由して、イルクーツクに移送されることになるわけです。当時から、東シベリアで採れる毛皮は貴重な貿易商人の貴重な商品だったので。

日本企業は、マーケット的にも資源的にも魅力のない東欧諸国より、ODA資金がついた中央アジアに大きな可能性を感じとっているようですが、この時点で中央アジアとロシアの歴史を勉強してみるのも、知的な興味をそそるでしょう。中央アジアが21世紀のシルクロードになることによって、ヨーロッパとアジアの距離が縮まることは

今でこそ大國のロシアも、その歴史のほとんどを通して、蒙古末裔の金帳汗國の屬國であった事実は、それほど知られていません。カザン汗國の襲撃を受け、連れ去られたロシア人はタタール人の奴隷となりました。『21世紀』という言葉はこの歴史的事実から生まれ

るでしょう。中央アジアが21世紀のシルクロードになることによって、ヨーロッパとアジアの距離が縮まることは

明らかですから、来世紀の世界史の発展を考える上でも、興味尽きないところでは。ハンガリーにとっても、マジャール民族の発祥地ですから。

ソ連の崩壊によって、これまでソ連の傘のなかに隠されていたユーラシアの諸国が、歴史の舞台に再び登場してきました。ヨーロッパと日本の間にはソ連という巨大な帝国が存在していたのですが、その帝国の崩壊によって、半ロシア化された中央アジアの諸国の存在が再び歴史の脚光を浴びつつあります。

明らかですから、来世紀の世界史の発展を考える上でも、興味尽きないところでは。ハンガリーにとっても、マジャール民族の発祥地ですから。

ソ連の崩壊によって、これまでソ連の傘のなかに隠されていたユーラシアの諸国が、歴史の舞台に再び登場してきました。ヨーロッパと日本の間にはソ連という巨大な帝国が存在していたのですが、その帝国の崩壊によって、半ロシア化された中央アジアの諸国の存在が再び歴史の脚光を浴びつつあります。

明らかですから、来世紀の世界史の発展を考える上でも、興味尽きないところでは。ハンガリーにとっても、マジャール民族の発祥地ですから。

たのです。いわゆる「タタールのくびき」からロシアが解き放たれる一步はイヴァン雷帝(1533~1584)治世のカザン攻略(ボルガ河流域のカザン汗国の首都)でした。このボルガ流域こそ蒙古末裔のタタール人の先住地でありさらに歴史を遡ればフィン・ウゴル語族の発祥地でもあります。

カザン攻略後、ロシアはボルガ流域を確保し、東シベリアへの活路を開きました。が、ピョートル大帝(1682~1725)の時代においても、南東はウラル河、オレンブルグ、オムスク、イルテシユ河線を越えることはできず、南はクリミアタタールに阻まれ、アゾフ海への進出すら苦勞する始末でした。ですから、極寒のシベリアを開拓する以外には方法がなかったのです。『ピョートル大帝とその時代』(土肥恒之公新書)はこうした条件のなかでロシア近代化に努め、北ヨーロッパ平定と新都市サンクト・ペテルスブルグの建設を進めた賢帝の歴史書ですが、そこ

にも中央アジアのタタールに奴隸としてつれ去られたロシア人を買戻す話も載っています。

ロシアがクリミア併合に乗り出した露土戦争は、エカテリーナ二世(1762~1796)の治世に起きました。大黒屋光大夫がこのエカテリーナに拝謁したのは1791年とされています。ちょうど露土戦争で慌ただしいなか、2度の拝謁を受けることになる様子は、『國酔夢譚』に記されています。ロシアが最終的にクリミア半島を手に入れるのは、19世紀半ばのクリミア戦争以後になります。

19世紀に入っても、中央アジアにはカザフは大中小のオルダ(カザフ人の集団)の支配地域であり、西の小オルダはロシアとの貿易関係を強め、東の大オルダは明国の朝貢国として、バミール高原を経由する貿易関係を結んでいました。明国は当時、多くの諸国と朝貢国の関係を保ち、アジアの大國としての地位を誇っていたわけです。

NHKテレビの「琉球の風」をご覧になっていらっしゃる方はなるほどと思われるでしょうが、当時、朝貢国として認められた諸国は、中国との貿易を認められ、皇帝への献上品の返礼にその何倍もの価値ある品々が贈られたのです。ロシアが中央アジアを支配するのは十九世紀後半です。西トルキスタンを征服し、中央アジアを支配して中国と国境を接したのは、ほんの百年ちょっと前のことなのです。

中央アジアに関する名著として、『ロシアとアジア平原』(佐口透著、吉川弘文館)があります。これは学術論文集ですので、やや読みづらいのですが、なかなか読みごたえのある著書です。またアジアに関する名著を手っ取り早く解説したものに、『現代アジア論の名著』(長崎暢子・山内昌之編中公新書)があります。大学入試の小論文の課題となるような書物や解説が載っていますから、いろいろな方法で利用することができます。

中央アジアの諸国はイスラム教の民族国家です。ロシア人の入植がかなり進んでいますから、このように言い切っ
てはいけません。ロシア革命当時、

こうしたイスラム地域には土著のムスリム社会主義が成立可能ではないかと考えた青年がいました。そのノンフィクション『スルトンガリエフの夢』（山内昌之著、東大出版会）もまた、一読に値する書物です。

1793年に日本に送還された光大夫は時の11代將軍徳川家斉の前で、漂流の経験を話すことになります。この時代に、ロシアの女帝と日本の將軍に拜謁を受けたのは、漂流漁民の光大夫ただ一人です。

人と民族の運命は幾度となく流転します。そこに歴史のロマンがあります。中央アジアの歴史との交わりのなかでヨーロッパと日本の歴史を勉強する時代が来たといえるのではないでしょう
か。

♪ 掲示板 ♪

★探しています

ピアノを探しています（できればグランドピアノ。但し今すぐではなく夏以降に購入したいと考えています）。ピアノを売りたい方、よいお店を御存知の方、ご連絡下さい。

梅村 欣世子

☎138-3443

★求人

ドナウ通信編集部では集まった原稿をワープロでタイプして下さる方を探しています。詳しくは編集部までお問い合わせ下さい。

★ご連絡下さい

平成クラブより

（ビデオテープ レンタル クラブ）

①在庫テープのリストができました。

ご希望の方にさしあげます。

②テープの宅配いたします。

③手伝って下さる方を探しています。

連絡先

平成クラブ

四出井 旺子

Fax 135-0608

Telex 176-9147

今号より「ドナウ通信」の編集体制が変わりました。江原編集長から盛田（野村総合研究所）が編集のバトンを受けました。いっそうの紙面充実と多くの人々が参加する会報にしたいと考えています。

これから日本人会の皆さんの原稿を常時受け付けますので、随想、読書

（書評）、催し物、掲示板（物々交換求人、求職）、「声」（言わせてもらいたい）等、いつでも編集室に送付してください。FAX原稿でも結構です

原稿の送付先…26614967

（NRI、盛田宛）

次回のドナウ通信の原稿締切は4月中旬、発行は5月初旬です。この予定に合わせて原稿をお送りください。

なお、原稿が多く集まりましたら、年4回の季刊にこだわらず、臨時号を発刊するつもりでおります。皆様からの積極的な投稿をお待ちしています。

追記

これまで挿絵を担当してくださった影山京子さんが帰国されることになりました。これまでのご協力に感謝するとともに、今後のご活躍をお祈りいたします。

影山さんに代わり、今回は私の友人で私の著作・訳書の装丁を担当してくれているカシュ・ヤーノシュさんにチャリティで挿絵をお願いすることにし

ました。カシュさんはとくにグラフィックアートで活躍していらっしゃる著名な画家です。グンデルレストランには彼の作品を記念したクリスタルの間があり、ワインリストの装丁も彼の担当になるものです。ハンガリー記念切手も数多く製作しており、最近ではオペラ「青髭公の城」をテーマにした版画を見られた方も多いと思います。オペラハウスの売店には、大きな額に入った黒と赤と青を基調とした独自のタッチの「青髭公」の肖像が売られています。

なお、カシュさんのアトリエを訪問されたい方は、私のところへご連絡ください。

（盛田 常夫）